お地蔵様のお姉ちゃん

籾木　はやひこ

夏の夜、同級生同士男女五、六人で集まって、夜更かしをしながらポテトチップスとコーラを飲みながら話をした。世間話や、同級生同士のうわさ話も底をつき、怖い話をすることになった。一人ひとり話をしていき、とうとう後男の番になった。

「何もネタはないよ。」

「みんな話をしたんだから、後男君も話をしてよ。ねえ。」

「ぼくは何も怖い話は持っていないけど、不思議な話はある。」

と言った。

女の子たちからも催促されて、恐る恐る後男は話を始めた。

みんな興味を持ち、耳を傾けた。

「ぼくが小学一年生の夏の話だ。」

と話を始めた。

後男には、四人の兄弟と父、母がいた。兄弟は、女二人、男二人の後男を含めて五人兄弟で仲が良く、顔も似ていた。父は、強情な人だったが、母は、信心深い人だった。よく小さいときから、家の敷地にある地蔵様に手を合わせていた。その地蔵様は、女の子のような顔をしていた。後男は、母に何を拝んでいるのか聞いたことがあった。母は、

「お前たちが健やかに過ごせるように拝んでいるんですよ。地蔵様は、子供の守り神だからね。」

と言った。

夏になり、父、母は、五人の子供を連れて、川に遊びに行った。その川はきれいな川で、護岸工事もされていなく、川幅も泳ぐのにちょうどいいくらいの川だった。子供たちと父は、水着に着替え川に入った。子供たちが見ている中、父は、小さな網と生のサツマイモを持ってきていて、川べりの草むらに近づくと生のサツマイモをかじってぐしゃぐしゃと口の中でしたかと思うと、「ぺぇー」と吐き出した。すると、川べりの草の中から川エビがのそのそ出てきた。それをしっぽの方からすくった。子供たちは声をあげた。

「エビが取れた、エビが取れた。」

兄の一人が、母へ報告に行った。父は、川から出て、

「アイスキャンデーを買ってこよう。いくつ買えばいいかな。七つ買えばいいな。」

と、車に乗り近くのお店に行ってアイスキャンデーを買ってきた。子供たちと母に配った。ところが、父の分が一つ足りない。

「間違えたかな。まあいい。お前達だけで食べなさい。」

みんなで、アイスキャンデーを食べおいしかった。

それから父は母と二人、川の子供たちを見ながら昼食の準備を始めた。子供達だけになったので、今度は、子供たち同士の水泳競争になった。川をさかのぼって、十メートルぐらい泳ぐのである。子供たちが一線に並んだ。一人の姉が言った。

「位置について、よーい。ドン。」

兄や、姉たちはサーと泳いでいった。後男は、さすがに小さくて、もたもたしていたが急に泳げなくなり、底に足をつこうとした。ところが深くて、足がそこに着かない。慌てて、バタバタし、おぼれそうになっていた。後男は、

（なにをやってもだめだ。底に足がつかない。溺れてしまう）

と思った瞬間だった。だれかが、足を支えた。後男は水の中でそれを見ると、あの家の地蔵さんに似た女の子が息もせずに足を支えているのが見えた。兄弟たちが気づき、父を呼びに行きった。隣で泳いでいた二つ上の姉も溺れていた。父は、まず姉を助けた。その時たまたま、川遊びに来ていた高校生の他人のお兄さんがおり、後男は助けられていた。父は、その高校生に深々お礼を言っていた。父の頭の中に、二人同時に溺れるという想定はなかったようだった。帰って夕食の時間、溺れた二つ上の姉が、話し出した。

「私がおぼれた時、うちの地蔵様に助けられた。」

「お父さんに助けられたんだろう。」

「いや、もっと早く本当は溺れてしまっていたのに、うちの地蔵様に似た女の子に足を支えられた。それがなかったら助からなかったかもしれない。」
「ぼくもそう、地蔵様のお姉ちゃんに助けられた。」
と後男が言った瞬間、母が泣きだした。みんなびっくりして、
「どうしたの、かあさん。」
「お前たちに言ってなかったけれど、もう一人兄弟がいるはずだったのよ。つぎ子と後男の間にね。女の子だった。母さんが流産してね。かわいそうなことをした。多分その子が、姉と弟であるつぎ子と後男を助けてくれたんだろうね。」
みんな悲しくなった。父の号令で庭にある地蔵様をみんなで拝むことにした。
後男は思った。
（姉さん。今日はありがとう。姉さんの分まで生きるよ。見守っていてください。）
地蔵様がにっこり笑った気がした。

お地蔵様(じぞうさま)のお姉(ねえ)ちゃん

2023 年 10 月 28 日　発行

著者　籾木(もみき) はやひこ

町制施行 60 周年・かんなみ知恵の和館 10 周年記念事業冊子
発行　函南町教育委員会
製本　函南町教育委員会生涯学習課（函南町立図書館）
電話番号　055-979-8700
419-0122　静岡県田方郡函南町上沢 107 番地の 1

当作品について転載・複製・複写・翻訳を著作者の許可なしに行うことを固く禁じます。
（著作権法上での例外を除く。）また、個人や家庭内の利用であっても、代行業者等の
第三者に依頼して無断でスキャン及びデジタル化することはできません。
作品の著作権は著作者に帰属しますが、函南町立図書館は作品を永続的に無償で使えるものとします（主に公開にあたっての編集、印刷、配布、掲載に関すること）。ただし、当館は著作者の創作性を重視し、作品内容には関与しないものとします。

夏の夜、同級生で集まって怖い話をすることに。後男は小学一年生の夏に体験した不思議な話を語る。それは家の敷地にある地蔵様にまつわる話だった……。